

みやぎ民話の会の歩み

- ◆ 1975年 みやぎ民話の会を結成
代表 小野和子(当時)・日本児童文学者協会会員・日本民話の会会員)
- ◆ 1977年 会報発行(後に「民話」と改名:現在までに30号を数える)
- ◆ 1982年 日本児童文学者協会編「ふるさとの民話」シリーズのうちの『宮城県の民話』(偕成社・1982年刊)を担当
(現地編集責任者:小野和子)
- ◆ 1985年4月〜1988年3月の3カ年、宮城県教育委員会の委託を受け、小野和子を責任者として、宮城県内の民話伝承調査に従事。その結果を、宮城県文化財調査報告書第130集『宮城県の民話』(B5版490ページ)としてまとめる(1988年3月発行)。
- ◆ 1985年から、会員が採訪してきた記録を「みやぎ民話の会資料集」として、その都度記録する。(現在までN.O.516冊を作成する)
- ◆ 1988年 日本民話の会発行『民話の手帳』(誌)N.O.38号(1988年刊)『特集 宮城県の民話』の編集を担当
(編集責任者 小野和子)
- ◆ 1991年〜 採訪によって聞き取った民話の活字化を図り、多くの人々に、この先祖の遺産を手渡したいという願いから、「みやぎ民話の会叢書」という民話集を発刊。現在まで、14集(16冊)を数える。
- ◆ 1994年 日本民話の会共催「日本民話の学校」(於栗駒憩いの家)を開催
- ◆ 1996年 みやぎ民話の会主催「第1回みやぎ民話の学校」を開催。以来、隔年で開催し、広く一般に呼びかけ、伝承の語り手を囲んで、その語りや暮らしの話などを聴く場を設定した。
- ◆ 2003年1月〜 みやぎ民話の会の代表を山田裕子、顧問を小野和子とする。
- ◆ 2011.3.11の震災に際し、仮設住宅などで民話を語り、被災者の心になぐさめをもたらすことを願って奉仕する。
- ◆ 2011年8月21〜22日 「第7回みやぎ民話の学校」於南三陸町ホテル観洋(当時まだ避難所だった)で開催。宮城県内で被災された民話の語り手6名を招いて、その体験を語っていた。全国から200余名の参加者が集まる。(「みやぎ民話の会叢書」13集参照)
- ◆ 2011〜2012年 第1回「みやぎ民話の学校」から参加くださった3名の伝承の語り手の語りを映像で残すべく、映画監督濱口竜介、酒井耕の両氏(せんだいメディアテークの「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に所属)による口承記録映画「うたうひと」の制作に参加。2011年秋から撮影を始め、2012年12月20日に、せんだいメディアテークシアターで初の試写会を開催する。
- ◆ 2012年7月〜 せんだいメディアテークとの協働で「民話 声の図書室」を開設すべく、これまでに集めた民話の収録テープ(約1000本)の整理や、宮城県を中心とする民話の語り手の映像記録・DVDシリーズの発行を行う。
- ◆ 2013年〜 せんだいメディアテークとの協働で「民話 ゆうわ座」を開催。誰もが知っている日本の民話を題材に、「みやぎ民話の会」が約45年にわたって記録してきた、民話語りの映像や音声を見たり聞いたする対話の場として、毎年1回、せんだいメディアテークを会場に行ってきた。(2019年12月までに計7回開催)
- ◆ 2014年8月29〜31日 「第8回みやぎ民話の学校」(於丸森町「あぶくま荘」)開催
- ◆ 2019年1月〜 みやぎ民話の会代表 島津信子、顧問 小野和子とする。
- ◆ 2020年現在、メディアテークとの協働で、「民話声の図書室」DVDシリーズを計30タイトル、CDシリーズを計6タイトル発行(制作:みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム・せんだいメディアテーク)。ラウンジ展示「2011.3.11 大津波に襲われた沿岸集落で、かつて聞いた『いいたえ、むかしはなし、はなし』」を計8回開催。